

- (1) 目標：・「読解発表」のねらいを理解させる。
 　　・活動の班と班員を生徒に確認させる。
 　　・「読解発表」の準備をさせる
- (2) 教材：①「コース別生徒配布資料」(A3片面 各自1枚)
 　　②「レジュメ・発表計画書見本」(A3片面 各自1枚)
- (3) 持ち物：筆記用具、AKC ファイル、テキスト、タブレット
- (4) 事前準備：班分け（コース別名簿を持参）
 　　全10班になるように、3～4人の班に分ける。
 　　座席は担当者で指示をしてください。
 　　開始時は班ごとに座席をくっつけていてもいなくても、どちらでもよいです。

(5) 担当者・使用教室：

教室	2-1	2-2	2-3	2-4
コース 担当者	国際 ○○・○○	家族・ジェンダー ○○・○○	地域・文化 ○○・○○	経済 ○○・○○

(6) 本時の指導計画

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	本時の目標を確認する		・「コース別名簿」を参照しながら、出欠と座席の確認をする。 ・「生徒配布資料」、「レジュメ・発表計画書見本」を配布する。 ・本時の目標の3点を読み上げて確認する。
展開1 6分	「読解発表」のねらい・進め方	・生徒配布資料の「2 読解発表とは」の(1)・(4)・(5)の内容を確認する。	・「生徒配布資料」の(1)・(4)・(5)の二重下線部を強調して読み上げる。 ・特に、(1)のねらいにおいて、読解発表は、知識をつけたり、プレゼン力をつけたりするよりも、「課題発見力を身に付けること」にあることを強調する。
展開2 6分	活動① 活動班 自己紹介	・活動班で自己紹介を行い、班員の名前・組・番を確認する。	・座席が班ごとにくっつける形態になっていなければ、座席を移動させる。 ・一人1分程度で自己紹介をさせる。名前、組、番、コースについて関心があること、の4点は必須で、後は自由に紹介させる。 ・班員の名前・組・番は必ず記入させる。レジュメや研究計画書に載せるためである。
展開3 30分	活動② 読解発表準備	・活動班で発表の準備をする。	・レジュメと発表計画書を作成させる。 レジュメと発表計画書の原本は Teams (～～～) 内のファイルにあることを伝える。
終結 3分	次回の連絡	・ファイルにプリントを綴じる。	・プリントをAKCファイルに綴じさせる。 ・次回の連絡として、次回・次々回も時間全て準備時間であること、開始前に座席移動を済ませておくことを伝える。

2年____組____番 氏名_____

令和●年度 第●回 探究 AKC II α (第2学年) 生徒配布資料 【〇〇・〇〇】コース

1 本時の目標

- 1 「読解発表」のねらいを理解する。
- 2 活動班の班員を確認し、自己紹介する。
- 3 「読解発表」の準備をすすめる。

2 読解発表とは

「読解発表」とは、あなたたちが「先生」となり、担当するページについて15分程度（質疑応答を入れて20分）の「授業」を行うものである。

(1) ねらい

- ◎ 発表および質疑・応答を通じて、研究テーマにつながるような課題や疑問を発見すること
- 各コースの基本的な知識を得ること
- △ 分かりやすいレジュメ*をつくったり、プレゼンやゼミをしたりすること

*要約。大意。また、研究などの要旨を印刷したもの

(2) 使用テキスト 『～～～～～～』

(3) 予定・分担

日程	内容	発表 班	担当する章・ページ	
○月○日(○)	読解発表準備①			
○月○日(○)	読解発表準備②			
○月○日(○)	読解発表準備③			
○月○日(○)	読解発表①	1班	前半 第1章 ～～～～	p ○～p ○
		2班	後半 第2章 ～～～～	p ○～p ○
○月○日(○)	読解発表②	3班	前半 第3章 ～～～～	p ○～p ○
		4班	後半 第4章 ～～～～	p ○～p ○
○月○日(○)	読解発表③	5班	前半 第4章 ～～～～	p ○～p ○
		6班	後半 第5章 ～～～～	p ○～p ○
○月○日(○)	読解発表④	7班	前半 第6章 ～～～～	p ○～p ○
		8班	後半 第7章 ～～～～	p ○～p ○
○月○日(○)	読解発表⑤	9班	前半： 第7章 ～～～～	p ○～p ○
		10班	後半： 第8章 ～～～～	p ○～p ○

(4) レジュメと発表計画書作成について

- ・見本と原本は、Teams (~~~~) の「ファイル」にあるフォルダ内にある。
- ・見本を見ながら作成する。
- ・ワードで作成する。提出時は PDF に変換してから提出する。
- ・A4用紙2枚までにまとめる。
- ・白黒印刷できるようにする。
- ・レジュメの終わりに聞き手が疑問を記入できるメモ欄を用意しておく。
- ・●月●日(●)●時までに、レジュメと発表計画書を Teams (~~~~) の「一般」の「ファイル」にある各フォルダ内にデータを提出すること。

(ファイル名は、レジュメ(国際 1班) や 発表計画書(経済 3班) のようにする)

(5) 発表の原則

- ・発表計画書を作成する。
- ・発表は15分程度で行い、質疑応答の時間を5分設ける。
- ・グループ全員が発表(スピーチ)する。
- ・発表の最後に、発表者全員が発表内容について研究テーマにつながるような自らの課題や疑問を簡潔に述べること。

3 活動班 自己紹介

①	組番	氏名	<メモ>
②	組番	氏名	<メモ>
③	組番	氏名	<メモ>

4 読解発表準備

7章：子どものための学校ってどんな学校？

1. 学校は何のためにつくられたの？

16世紀歐州：中世の身分制社会からの解放

→経済力と政治参加の権利を持った市民層

⇒伝統的な共同体を失った人々

➢国や教会が救貧や治安維持を目的として子どもに読み書き・宗教教育などを施す

産業革命期：工場労働者として必要な資質や能力の育成が必要

➢例えば・・・勤勉な態度／規律正しさ／権威と命令への従順さ

→子どもたちの風紀の乱れが起きないよう宗教教育や道徳教育も徹底された

産業の発展により他国との経済的紛争・戦争の増加

・産業、経済の発展・他国との戦争での勝利のために、人々が国民としての一体感を持つ必要

→国民統合が必要 そのために・・・学校で国語教育や道徳教育・宗教教育が行われる

まとめ：学校は ①基礎的な読み・書き・算の能力を持った労働者を効率的に生み出す

②国民意識を培う

この内容は必ず明記する

矢印や記号を用いて要点をまとめる

2. 人材の社会的配分装置

日本の学校の目的：「人格の完成」

岡崎高校の教育目標

たかい知性 豊かな情操 たくましい心身

➢知・徳・体のいずれかに偏らない人間として調和の取れた成長

戦後の教育改革により 9年間の義務教育・「6, 3, 3, 4 制」の単線型学校体系が成立

➢小学校6年間・中学校3年間・高校3年間・大学4年間

→高校・大学の進学率が上昇

なぜ高校や大学など上級学校への進学率が上昇したのか？

写真や図の使用可

→人材の社会的配分装置としての役割を学校が果たしていたから

人材の社会配分装置：学校の修了証書がその所有者を様々な職業や社会的地位に振り分ける役割を果たすこと

教育費負担

能力高まる

3. 学歴という新しい文明病

・高度経済成長期：恵まれた社会的地位や給与の職業をつくりだす→人々の進学意欲の高まり

→学校教育の機会拡大→学歴競争激化→“何を学んだか”よりも学歴が重視される社会の登場

・学歴病：イギリスの社会学者ロナルド・ドーアが指摘

学歴社会の問題点とは何か？

・高度経済成長期：教育内容の増加

・学んだことが実生活の体験と関連させられない = 「剥落する学力」

→競争が動機となった「勉強」で身につけられた学力の限界

☆今後育成すべき学力とは何か？

【作成のポイント】

レジュメを見れば、本の内容が分かるようにまとめられるとよい

聞き手が研究テーマにつながるような課題や疑問を記入できる空欄を必ず設ける
大きさはこれが最低限

探究 AKC II α 発表計画書

発表日時 7月 25 日（前半・後半）

担当する章【7章】 該当頁【89ページ～92ページ】

▲ 班 氏名： ○○○（組・番）・○○○（組・番）・○○○（組・番）

段階	発表者名	伝える内容・質問する内容（質問する理由）	その他（プリント配布・資料提示など）
導入 <u>3分</u>	【発表者名】	<p>Q：なぜ「学校」があるのだと思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は学びを通して人材を育成する場であると注目させる 	<p>全体への問い合わせは「Q：質問内容」で表記する</p>
展開 1 <u>4分</u>	【発表者名】	<p>内容：学校ができるまでの過程を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は16世紀の欧州で作られ始めた ・産業革命→工場労働者として必要な資質や能力の育成が必要 →労働者を効率的に生み出すため学校がつくられた ・産業の発展により他国との経済的紛争が増え戦争も起きる →他国との戦争に勝つため国民統合が必要 →国民としての意識を持たせるために学校がつくられた 	<p>質問をする場合は質問の意図を明記する</p>
		<p>時間配分を考える</p> <p>説明内容が変わる→話し手を変える 「展開1・展開2・・・」と表記する</p>	
展開 2 <u>5分</u>	【発表者名】	<p>内容：日本の学校の目的について説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の学校の目的是「人格の完成」 ・戦後の教育改革により9年間の義務教育・「6, 3, 3, 4制」の単線型学校体系が成立→高校や大学の進学率が上昇 →人材の社会的配分装置としての役割を学校がもつ <p>内容：人材の社会的配分装置について説明する</p> <p>Q：みなさんが岡崎高校に進学した理由は何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い学校に入る、良い大学に入ると良い職業に就けるという考え方を引き出し、人材の社会的配分装置の説明につなげる ・学校の修了証書がその所有者を職業や社会的地位に振り分ける役割を果たすことを人材の社会的配分装置という 	<p>話す内容の大枠を 「内容：話す内容」で書き、 その上で話すポイントを箇条書き・矢印を用いて書きすこと</p> <p>・資料図7. 1 戦後日本の高校・大学への進学率の変化をみせる</p>
		<p>グループの全員が発表できるように調整する</p>	
展開 3 <u>4分</u>	【発表者名】	<p>内容：学歴について説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長期に経済成長と上級学校進学率は並行して上昇 ・学校教育の機会拡大により学歴競争が激化するよう ・学校で何を学んだかよりも学歴が重視される社会の登場 ・イギリスの社会学者ロナルド・ドーアの学歴病を説明する 	<p>何か聞き手に提示する場合は最右段に書く</p> <p>【作成のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20分程度の発表なので、説明すべきところを精選する
まとめ <u>2分</u>	【発表者名】	<p>内容：教育内容の現代化とこれからの教育について説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度経済成長期では学問の最先端の知識を得ることで経済成長と技術革新を支える有能な人材の育成を目指す ・学んだことが実生活の中と関連させられない →「剥落する学力」→今後育成すべき学力を考える必要あり 	
課題・疑問発表 <u>2分</u>	【発表者名】 【発表者名】 【発表者名】	<ul style="list-style-type: none"> ・「人工知能が重視される社会で育成すべき学力は何か」 ・「なぜ日本で義務養育は9年間と定められたのか」 ・「高校の教育目標にどのような傾向があるか」 	<p>研究テーマにつながるよう な自らの課題や疑問を書く</p>

発表日時 ○月○日

担当する章【〇〇 章】 担当頁【〇〇 ページ～〇〇 ページ】

▲ 班 氏名：〇〇〇（〇組・〇番）・〇〇〇（〇組・〇番）・〇〇〇（〇組・〇番）

〇章：

1.

2.



探究 AKC II α 発表計画書

発表日時 _____ 月 日 (前半・後半)

担当する章【_____】 該当頁【_____ページ～_____ページ】

班 氏名 :

段階	発表者名	伝える内容・質問する内容（質問する理由）	その他（プリント配布・資料提示など）